様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（英語） ／畑江　美佳

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

平成19・20年度科研費（基盤C）「小・中連携を意識した小学校英語の実践的研究」（分担者）、
平成22～24年度科研費（基盤C）「小学校外国語活動における『絵本』の類型化と運用方法に関する実践的研究」（代表者）
として、上越教育大学の石濱博之准教授と組んで継続的に小学校英語教育に関する研究をしているので、来年度の科研費申請に向けて今までの研究をさらに発展させるようなテーマを検討したい。具体的には、「他教科との連携による外国語活動」として、本学の国語、算数、音楽などの教員と協力体制とつくり、意味のある場で児童の興味・関心と合致するような外国語活動のカリキュラム、授業作りを目指したい。赴任したばかりなので、他教科の先生方に相談を始めたばかりだが、ぜひ実現できるように働きかけたい。また、今後も上越教育大学との共同研究を継続し、石濱准教授の研究分担者としての申請協力も続ける予定である。

2．点検・評価

平成25年度の科研費の申請をした。英語教育の抜本的な改革を念頭にしたカリキュラムの再構築のための研究は早急にされるべきであるので，今後，科研費以外でも，研究費の獲得に向け積極的に応募したい。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

本学に4月に赴任したので、今年度は現状把握に努めたい。まずは、学生の指導を丁寧に行い学生の満足のいく授業をしたい。また、小学校での外国語活動は注目されており、様々な研究大会や研修会が開催されるので、そのような場所で鳴門教育大学大学院の存在を知らしめていきたい。

2．点検・評価

小学校英語教育センターの仕事で，大学外に出ることが多いため，大学院紹介のパンフレットを配るように心がけた。徳島県外の研修会等では，大学院についての説明を積極的にするように心がけた。
また，大学院の英語科教育特論Ⅲや，英語科教育演習Ⅲでは，活発なプレゼンやディスカッションを通じて，学生の能動的な授業を工夫したため，学生評価も高かったので，小学校英語を研究したい入学希望者の耳に入るような特徴的な授業を継続したい。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

○前任校の鶴岡高専でのTOEIC・英検等の指導経験を生かして学生の英語技能の向上を図る。
○学生の海外留学の推進のために授業その他で啓発し、グローバルな人材の育成を目指す。
○オフィスアワーを活用し、学生の個別指導を強化する。
○授業やゼミはできるだけ英語で行う。

2．点検・評価

学生の意識改革に努めた。現在の自分の語学力に満足せずに，常に上を目指して努力するように学生に働きかけた。海外経験のないまま卒業しないように，留学のチャンスなどを学生に紹介した。
授業は英語での出席確認から始まり，できるだけ英語でのやりとりを心がけた。
グローバルな意識を持てるように，留学生を交えた授業では，彼らの国の英語教育との比較等をトピックにして，ディスカッションを多く取り入れた。
オフィスアワーに補習，質問受付などを実施した。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

○科研費（基盤C）での研究「小学校外国語活動における『絵本』の類型化と運用方法に関する実践的研究」が3年目となるので、教員の実態調査のデータ分析、小学校での実践などを通して、『絵本』活用の方法論をまとめ、研究大会等で発表、報告書を作成する。
○他教科と英語教育との連携についての研究の枠組みを作成し、学内の協力体制を確立する。

2．点検・評価

科研費の研究で，小学校英語教育に関する論文を3本発表し，研究大会で発表，今後まとめていく予定である。
附属小学校との連携では，フィールド研究で授業実践をやり，絵本の有効的な活用についての研究を共同で実施した。
3月にアメリカのコロンビア大学ティーチャーズカレッジの研究者との日本の英語教育に関して共同研究を始めることになり，来年度の本格的な研究開始のための準備を始めた。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

〇4月に赴任したので、本学の大学運営の現状を把握することに努める。
〇実地教育専門部会委員としての任務を遂行する。

2．点検・評価

実地委員会専門部会委員として公立小学校を訪問，本学の英語教育センターの活動を紹介した。
小学校英語教育センターのお遍路型研修や，ワークショップ，オーストラリア海外研修等の説明をして，今後の依頼があれば協力する旨を伝えた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

〇フィールド研究で附属小学校との連携を図り、効果的な指導法や教材の開発などで貢献する。
〇小学校英語教育センター員として、お遍路型研修の講師、教員のためのワークショップの講師を務める。
〇教育支援講師、公開講座、こどもサポーター研修会の講師を務める。

2．点検・評価

附属小学校には週1回ほど通い，児童の実態把握，及び授業実践に携わった。
板野東小学校で絵本活動を継続して行い，英語教育の支援をした。
お遍路研修では，徳島県内，県外での研修会の講師をした。
小学校英語活動ワークショップを前期と後期に開催し，小学校英語の指導者育成に寄与した。
公開講座，こどもサポーター，教育支援講師として地域のニーズに合った研修会を催した。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

私が鳴門教育大学に採用していただいた理由の一つには，鳴門教育大学が小学校英語教育において日本で最も先進的な研究機関として全国で認められるようになるために，これから様々な取り組みをするためだと思っている。今年度は，小学校英語教育センターの現状の把握と現状の活動維持に努めた。来年度から本格的に新しい試みをするための準備期間として，今年度は，鳴門市や徳島市の教育委員会とのコネクションの確立，他の公立小学校の校長や教員との連携を意識してきた。また，アメリカの教育機関や研究者との研究体制も整えた。来年度は本格的に小学校英語教育センターを中心とした新しい英語教育を実践し，研究し，内外に知らしめるような取り組みをする予定である。今年は，その足がかりを作ることができたと考えている。